SUCCESS STORY

サイバーセキュリティの「ラストワンマイル」を自負
お客さまの導入、運用、サポートに、リスク状況の可視化で"あんしん"をプラス。

日本事務器株式会社 https://njc.co.jp
東京都、日本 | 844名 (NJCグループ 1,185名) [2025年3月期]
ソリューション: TrendAI Vision One™ Cyber Risk Exposure Management、TrendAI Vision One™ for Service Providers

導入の背景

日本事務器株式会社(以下、日本事務器)は1924年の創業以来、全国41拠点を通じて、各地域の様々な業種・業態のお客さまに対して、多彩なICTトータルソリューションサービスを提供。お客様の良きパートナーとして、時代の変化に柔軟かつ俊敏に反応し最適なサービスをご提供してきた。

なかでも中堅・中小規模企業向けに提供する「あんしんプラスシリーズ」は、「安心・安全にICTサービスを運用するためにかかる管理者の負担軽減を実現」をコンセプトに、サイバーセキュリティ製品の導入にとどまらず、長年のサポートサービス事業で培ったノウハウで提供する手厚いサポートにより、5,000社を超える企業のサイバーセキュリティを支えている。

お客さまの課題

同社ではクライアントパソコンのためのセキュリティ対策およびEDR、UTMによるネットワークセキュリティまで幅広くセキュリティ対策を提供し、ランサムウェア攻撃や外部からの侵入など、複雑化、多様化するサイバー攻撃に幅広く対応してきた。昨今、お客さまに提供するサービスが多様化する中で、お客さまから「自分がどのような状況にあるのかが把握できない」、「何から対応すれば良いかわからない」といった声も寄せられていたと、同社事業戦略本部シニアマーケッターの西浪 氏は語る。

加えてサプライチェーンリスクマネジメントの観点から、サイバー攻撃への事後対応ではなく、サイバーセキュリティの事前準備状況の管理が求められるようになり、これまでの保護対策にとどまらず、サイバーリスクの把握(可視化)から復旧のためのセキュリティ対策状況、組織のセキュリティ体制、サイバーインシデント発生時の対応プロセスといった、「業界内のガイドライン、組織系列内のセキュリティチェックシートへの対応が必要な状況が発生し、採用しているセキュリティ対策を含め、チェック対応の要望が増えている」と事業戦略本部担当部長の今井 氏は続ける。

導入効果:

- お客さま環境のリスク可視化によりプロアクティブな対応が可能に
- 対応すべきリスクが「高・中・低」で可視化され、お客さまやサポートエンジニアの対応の負担や作業工数を削減
- 被害の芽を事前に摘むことにより、万が一のサイバー攻撃被害時の対応工数や企業のイメージへの悪影響を削減

選定理由

前述の課題からサイバーリスクと対策の可視化、保護から復旧まで見据えたガイドラインへの対応効率化を検討していた日本事務器は、トレンドマイクロのCyber Risk Exposure Management(CREM)に目をとめた。CREMは脆弱性やセキュリティ対策製品を含む設定ミスなど、サイバー攻撃の端緒となる「アタックサーフェス(攻撃対象領域)」の把握・可視化に加えて、お客さまのサイバー環境のリスクの可視化、対策の優先度づけ、対策のアドバイスを行う製品である。CREMでは脆弱性などの把握した潜在的なリスクを、わかりやすく高/中/低に優先度づけし、今必要な対策を明確にする。さらにトレンドマイクロのAIセキュリティプラットフォーム「TrendAI Vision One™ for Service Providers」の一部として、日本事務器が提供してきたエンドポイント保護対策とも連携が可能。脆弱性などの潜在的なリスクとクライアントパソコンやサーバで脅威検知状況を組み合わせることで、組織全体のサイバーリスク状況を数値化されたスコアとして把握することも可能となる。

西浪 一雅 氏
事業戦略本部 ホリゾンタルソリューション企画部 ITプラットフォームソリューション企画担当
シニアマーケッター

今井 義昭 氏
事業戦略本部 ホリゾンタルソリューション企画部
担当部長

川田 和典 氏
NJCネットコミュニケーションズ株式会社
オペレーション部 サービスオペレーションセンター
マネージャー

ソリューション

日本事務器では、CREMをマネージドサービス「CREMあんしんプラス」として採用。サイバー攻撃による侵害やインシデントの潜在的なリスクを特定し、被害として顕在化する前にリスクを軽減するASM（アタックサーフェス管理）を行うプロアクティブセキュリティに基づくサービスとして、中堅・中小企業や医療機関のセキュリティへの対応力強化を支援するサービスとして展開を開始している。

今回採用したCREMは従来のエンドポイントセキュリティ対策製品と併せて、セキュリティプラットフォームであるService Providersの基盤上でお客さまに機能を提供。エンドポイントセキュリティと併せてご利用いただくことで、サイバーリスクの把握、マルウェアなど攻撃からの保護、有事の際の復旧といった、サイバーセキュリティ製品ベンダーとお客さまをつなぐ、「ラストワンマイル」ともいえるサポートを提供する。

今後の展望

日本事務器では「中堅・中小規模のお客様に大規模企業と同等のセキュリティを提供」することを目指し、お客さまにとっての「ラストワンマイル」を自負する企業として中堅・中小規模のお客様へのセキュリティの浸透、安全なICT環境の活用を進めている。

同社ではマネージドサービスを提供しているネットワーク機器などとの連携、SIEM（Security Information and Event Management）としてのさらなる機能拡張に期待を寄せながら、多彩なセキュリティ機能を統合プラットフォームから提供し、セキュリティ情報を連携、対策を自動化するというTrendAI Vision One™ のコンセプトに共感、さらなる期待を高めている。

導入効果

「CREMを採用し、お客さま環境のリスクが可視化できるようになったことで、日本事務器のサポートエンジニアによるプロアクティブな対応が可能になった」と今井 氏は語る。CREMによって把握した複数の脆弱性のうち、優先度が「高」の脆弱性に対して優先的に修正プログラムを適用することで、お客さまや同社のサポートエンジニアの対応工数の削減など負担減にもつながることが期待されている。

マネージドサービスとして、お客さまに「これまでも、お客様環境のエンドポイントでのセキュリティイベントについて、『当社で対応しておいた』とご案内できるようなサービスを提供していた。今後は、CREMの採用によって『攻撃されそうなリスクも先に対応しておいた』と、さらに安心を提供できる素地が整った」(西浪 氏)

サイバーセキュリティの取り組みを一歩先へ

日本事務器株式会社のような組織が、TrendAI Vision One™ を活用して、どのように「リアクティブ」から「プロアクティブ」なセキュリティへと進化を加速しているのかをご紹介します。

詳細はこちらから
https://trendaisecurity.com/ja

TrendAI™ について

TrendAI™ は、トレンドマイクロのエンタープライズ向け事業部門であり、AIセキュリティのグローバルリーダーです。AIの包括的な可視化と統合セキュリティの提供を通じて、組織に確かな信頼をもたらし、イノベーションを推進するとともに、リスクを最小化します。

現在、世界185か国において大手企業や政府機関に採用され、アイデンティティ、インフラ、データに至るまで、組織全体を横断したセキュリティを提供しています。AI Fearlessly.

https://trendaisecurity.com/ja